電気設備工事特記仕様書

1. 工事概要
2. 工事名称　市庁舎新築工事（機械設備）
2. 所在地　座間市緑ケ丘5855番地　250　「用途地域　住居地域」
3. 建物概要

番号	建物名称	主体構造	回数（地上/地下）	延床面積（㎡）	消防令別表1
1	市庁舎	SRC.S	7/2		16(イ)
2	地下駐車場	SRC.RC	0/2		
3	食堂棟	RC	2/0		
4	駐輪場		1/0		
5	その他		1/0		

4. 工事種目　注：○のついたものを適用する。

番号	工事種目	建物 1	2	3	4	5	屋外	備考
1	機器設備	⊙	・	・	・	・	・	
2	配管設備	⊙	・	・	・	・	・	
3	ダクト設備	⊙	・	・	・	・	・	
4	換気設備	⊙	・	・	・	・	・	
5	排煙設備	⊙	・	・	・	・	・	
6	自動制御設備	⊙	・	・	・	・	・	

5. 設備概要　注：○のついたものを適用する。

方式	設備概要		
⊙主熱源	・往復動式冷凍機 ⊙冷温水発生機 ・鋼鈑製温水ボイラ ・炉筒煙管式ボイラ ⊙ﾌﾞﾗｲﾝｽﾀｰﾄ潜熱畜熱	・遠心式冷凍機 ・空気熱源ヒートポンプ冷凍機 ・鋳鉄製ボイラ ・水管式ボイラ	・給水式冷凍機 ・水熱源小形ヒートポンプﾕﾆｯﾄ ・真空式暖房機 ・電気ボイラー ・温室暖房機
⊙空調	⊙単一ダクト ・空冷パッケージ形空調機 ・水冷パッケージ形空調機	⊙VAN ⊙ファンコイルユニット	・ターミナルレヒート ・セパレート形ルームエアコン
⊙冷温水配管	⊙2管式	・3管式	○4管式
⊙排煙	・自然	・機械	・機械自然併用
⊙自動制御	・電気	・電子	・空気

6. 設計温湿度

	外気		室内					
			一般系統		市民ホール、ロビー		電算機	
	温度（DB）	・湿度（RH）	温度（DB）	・湿度（RH）	温度（DB）	・湿度（RH）	温度（DB）	・湿度（RH）
夏期	32.3℃	64 %	26 ℃	50 %	25 ℃	50 %	24 ℃	50 %
冬期	0.6 ℃	40 %	22 ℃	50 %	22 ℃	50 %	21 ℃	45 %

Ⅱ. 工事区分　注：⊙のついたものを適用する。

項目	区分 建築区分	電気	空調	給排水	別途
1. パイプシャフト、ダクトスペースなどの改め口及び天井の改め口					
2. 湧き水槽、蓄熱槽などの躯体、断熱、内外防水（仕上げ）、マンホール並びにタラップの設置					
3. 排水溝などの躯体、内外防止（仕上げ）、マンホール並びにタラップ					
4. し尿浄化槽設備の躯体、内外防水（仕上げ）、マンホール並びニタラップの設置					
5. し尿浄化槽設備の内外装置の設置					
6. 建物内の排水溝、配管ピット（内外防水並びに仕上げ共）					
7. 煙突工事（内部ライニング、タラップ、掃除用扉並びに水抜管の設置共）置共）					
8. 同上煙道の製作・設置					
9. 建物外壁に取り付く給排気用ガラリの製作・設置					
10. 同上外壁ガラリのウェザーカバーの製作・設置					
11. 一般換気扇の設置					
12. 建物内壁などの取付く吹き出し口・吸い込み口のガラリなどの製作・設置					
13. 同上化粧用特殊ガラリの製作・設置					
14. 各室建具に取付くガラリの製作・設置					
15. 吹き出し口・吸い込み口などの取り付けのための穴あけ及び枠組補強					
16. 二重スラブ内の連通管及びマンホールの設置					
17. 地下室などの二重壁内の水抜管の設置					
18. 鉄筋コンクリート造などの躯体貫通又は半横子部分（設置機器、配管配線）の補強					
19. 同上貫通又は半貫通部分のスリーブ、箱塔の製作・設置					
20. 鉄骨部分の貫通スリーブ、箱などの製作・設置					
21. ルーフドレーン類及びたてどい並びに、雨水沈砂槽までの横引配管					
22. 同上たてどいのＧＬ以下第1桝迄の配管接続工事					
23. 造り付け流し台、ガス台及び戸棚の設置					
24. 造り付け流し台の排水金具					
25. 造り付け浴槽の設置					
26. 既製浴の設置（バランス釜使用の場合はそれを含む）					
27. ユニットバス類の設置					
28. ユニットバス類の配管接続					
29. 脱衣室、洗面所、便所などに取り付けの化粧鏡					
30. 機器類付属制御盤とその二次側配線					
31. 自動制御盤電源供給					
32. ガス漏れ警報設備					
33. ダンパー用自動閉鎖装置					
34. 同上煙感知器、制御盤、配管配線工事					
35. 自家発電設備オイルタンク及びサービスタンク迄の油配管工事					
36. 自家発電設備用給排水配管工事					
37. 御制御用フロットスイッチの設置					
38. ファンコイルユニット用カウンター					

食堂棟部分は、将来別途工事

Ⅲ. 工事仕様

1. 共通仕様

「機械設備工事標準図」（平成元年度版）及び防衛施設庁「機械設備工事共通仕様書」「防衛施設周辺防音事業工事標準示方書による。

2) 共通仕様書で「監督員」とあるものはすべて「係員」と読み替える。
3) 本仕様書で「図示」とあるのは設計図面記載事項を意味する。　ただし、共通項目は、後者を優先とする。
4) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合はそれぞれの工事共通仕様書、標準（平成元年度版）を適用する。

2) 種目・項目・特記事項の適用
特記事項は○印のついたものを適用する。
⊙印なないも場合は※印のついたものを適用する。
⊙印と※印のある場合は、共に適用する。

⊙一搬共通事項

3. 設計図書の優先順位
1) 工事見積概要書及び現場説明事項
2) 質疑応答書及び補足訂正追加事項
3) 設計図書（図面、仕方書、金抜内訳書）　4) 防衛施設庁「機械共設備共通仕様書」（以下「防共仕」）※但し
5) 共通仕様書　「防共仕」については、防音工事についてのみ優先とする。

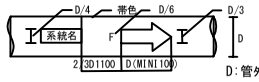
項目	特記事項
⊙機材	使用機材等指定表によるほか同等品以上とする。ただし、同等品以上とする場合は係員の承認を受ける。
⊙工事用電力、水、その他	工事用電力、水及び官公署その他への手続き費用の負担とする。
⊙主任技術者の資格	※資格者を選任する。（⊙資格の区分Ⅰ　・資格の区分Ⅱ）選定しない
⊙機材の寸法	機材等は係員の指示により処理する。
⊙発生材	発生材は係員の指示により処理する。
⊙技能士	※適用する。（⊙配管工事　⊙ダクト工事　・保温工事　・　）・適用しない
⊙工事写真	※建築工事仕様書による。 ⊙下記のものを係員の指示する規定の台紙に添付し、撮影箇所を明記し係員に提出する。 着手前写真　カラー　※キャビネット版・手札版　⊙サービス版20枚　2部 工事中写真　カラー　※キャビネット版・手札版　⊙サービス版　枚　2部 ※工事報告書に添付

竣工写真

分類	規格	撮影枚数	部数
・ﾓﾉｸﾛｰﾑ	・キャビネット版	・　枚以上	・　部
※カラー	※キャビネット版○４つ切	※30枚以上	※3部
※ｶﾗｰｽﾗｲﾄﾞ		・　枚以上	・　部

撮影者は、（株）三輪美久写真事務書　044（911）4354とする。

⊙工事中の提出書類	（1）提出書類は枠設計工事監理要領（提出書類事務処理　平成元年度版）による。 2）着手時に設計図をA3版の縮小を行い、白焼製本３部を提出する。
⊙工事完成図	※建築工事仕様書による。（3）座間市との契約書及び市からの指示による。 ⊙原図作成（又は設計原図訂正）の上竣工後１ヶ月以下に原図共提出する。 （1）製本　1部（　）の り貼　3部　（2）A3 版縮小白焼　3部
⊙提出図書	⊙マイクロフィルム（マスターフィルム及び5こまフィルム）を提出 工事完成と共に下記の書類を整理して提出する。 ⊙施工図（A1版製本）　2部　⊙各種機器製作完成図　3部 ⊙保守に必要な指導案内書　2部　⊙各種試験成績書　3部 ⊙使用機材連絡一覧表　3部　⊙保守工具リスト　2部 ⊙各種届け書、許可書　3部　（写共）　⊙保守工具リスト　2部
⊙施工計画書	
⊙機材の検査	検査する機材、種別は係員の指示による。なお、工事現場以外での検査及び試験の立会いに要する費用（旅費）は工事負担金額に含む。
⊙建物対象外発表	本工事に関して施工者及び関係者が新聞、雑誌等に発表する際には、事前に発表の企画内容を建築主及び検設計に通知して、その了承を得た後、仕上がり原稿について建築主及び検設計の最終承認を得るものとする。
⊙建物瑕疵	請負人工事約款に規定する工事瑕疵が発生した場合はすみやかに補修する。
⊙品質管理	請負者は自主施工監理者を選任し、品質管理を徹底すること。
・契約	本工事の契約は四会連合協定工事請負契約約款（昭和56年9月改正）による。
⊙天井仕上げ区分	（室名）は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
⊙研り	既存コンクリート、床、壁等の配管の穴明けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
⊙騒音規制基準	昼間　ホーン　朝夕　ホーン　夜間　ホーン 上記基準を厳守する。
・建設工事保険	請負者は、本工事の全ての物件に対して自己の負担にて、係員の承認する妥当な金額の損害保険を付し、写しを提出する。建設工事保険会社は工事見積要国項書による。
⊙標識その他	共通仕様書によるほか下記による。 配管の標別は系統名、帯、流れ方向を示す矢印により行う。 1）指示場所 系統名は機器、配管類の接続部付近、帯、矢印は機器類の接続部付近、離壁の前後分岐及び合流点付近で操作上便利でかつ見やすい位置に表示する。 2）表示方法



D:管外径（保温がある場合は保温外径）

3）系統名・矢印は黒、配管色はP1-1002とし、帯色は下記による。

配管名称	番号		備考
蒸気	P33-141		圧力記入
凝縮水	P2-1006		保温なし　耐熱シルバー
高温水	P33-205		
温水	P34-257		
冷水	P13-707		
冷温水	P34-257	P13-707	二重帯とする
冷却水	P12-501		
給水	P31-746		
給湯	P6-148		
排水	P26-252		
通気	P19-302		
消化	P33-134		
ガス	P34-351		
油	P30-254		
空気	P1-1036		

番号は日本塗料工業会1989年度版による

⊙共通事項

⊙室内許容騒音値	事務室NC45くを原則とする。 尚指定する室については、係員の後決定する。
⊙配管材料および継手	⊙冷温水管　※鋼管（JIS G3452）　・ステンレス鋼管（JWWAG115） ⊙冷却水管　※鋼管（JIS G3452）　・塩ビライニング鋼管（SGP-VA FVA）） ⊙給水管（屋内）　※塩ビライニング鋼管（SGP-VA FVA）） ・ポリ粉体鋼管（SGP-PAS.-FPA）　・ステンレス鋼管（JWWA115） （屋外）　※ビニル管（HIVP）　・塩ビライニング鋼管（SGP-VA FVD）） ・ポリ粉体鋼管（SGP.PD.　PVD） ○雑排水管　※鋼管（JISG3452）　・コーティング鋼管　・ビニル管（VP） ・通機管　※鋼管（JIS3452）・ビニル管（VP） ・蒸気（給気管）　※スケジュール管　（JISg3454,SCH40）　・鋼管（JISG3452）　IS3452） （還管）　（※ステンレス鋼管（JISG3448） ・スケジュール管（JIS G3454,SCH40） ・油管　※鋼管（JIS G3452） ○ステンレス鋼管継手　※プレス式管継手　・圧縮式管継手 ※突き合せ溶接式管継手(75SU以上) ・ドレッサー形スナップリング式管継手 ・グリップ式継手　・拡管式管継手 ※ベローズ形　・合成ゴム製 ※ベローズ形　・合成ゴム製
⊙防振継手	(1) 建物導入部　※フレキシブルジョイント　・コルゲート管継手 ・スライド形継手　・設ければ
⊙フレキシブル継手	(2) 絶縁継手　異種金属ぼ接続部には全て設ける。
⊙配管施工	(2) 溶接部の非破壊検査　※適用する。※放射線透過検査 ・浸透探傷検査又は磁粉探傷検査 ○適しない。
⊙管の接合	

⊙共通事項

○一般用弁

呼称	寸方区分	名称	適用 令温水	冷却水	給水	排水	油	蒸気 往	返		
名名	50A以下	青銅弁（5K）	※	※	※	※	・	・	・	・	・
		青銅弁（10K）	⊙	⊙	⊙	⊙	・	・	・	・	・
		ステンレス鋼弁	・	・	・	・	・	・	※	・	・
		鋳鉄弁（10K）	・	・	・	・	※	・	・	・	・
	65A以上	鋳鋼製（5K）	※	※	※	※	・	・	・	・	・
		鋳鋼製（10K）	⊙	⊙	⊙	⊙	・	・	・	・	・
		鋳鉄弁（10K）	・	・	・	・	※	・	・	・	・
		ステンレス鋼弁	・	・	・	・	・	・	※	・	・
名名名	50A以下	青銅弁（5K）	・	・	・	・	・	※	・	・	・
		青銅弁（10K）	・	・	・	・	・	・	・	・	・
		鋳鉄弁（10K）	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	65A以上	鋳鉄弁（10K）	・	・	・	・	・	・	・	・	・
逆止弁	50A以下	青銅弁（10K）	※	※	※	※	・	・	・	・	・
		鋳鉄弁（10K）		・	・	・	※	・	・	・	・
		ステンレス鋼弁		・	・	・	・	・	※	・	・
	65A以上	鋳鉄弁（10K）	※	※	※	※	※	・	・	・	・
		ステンレス鋼弁			・	・	・	・	※	・	・
バタフラ弁	50A以下	ｺﾞﾑｼｰﾄﾊﾞﾀﾌﾗｲ弁（10K）	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	65A以上	ステンレス鋼弁（10K）	・	・	・	・	・	・	・	・	・
ボール弁	50A以下	青銅弁（10K）	・	・	・	・	・	・	・	・	・
		ステンレス鋼弁	・	・	・	・	・	・	・	・	・
	65A以上	鋳鉄弁（10K）	・	・	・	・	・	・	・	・	・
		ステンレス鋼弁	・	・	・	・	・	・	・	・	・

○防振つりおよび防振支持　※下記による。　・防振は行わない

金物施工範囲

施工場所		主機械室	各階機械室	天井機器	
施工方法	シングル	・	○	⊙	・
	ダブル	※	⊙	・	・
区分		・冷却水管	・冷温水管	・令水管	・温水管

○埋設配管　1）地中埋設標　※下記の配管に設ける　○設ける
令水管・温水管　・冷温水　・蒸気（給気、還管）
2）埋設表示アルミテープ　※設ける　・設けない
3）排水管を除く管の埋設の深さは、一般地600以上、車両通路1200以上とする。
4）地中埋設の鋼管類（排水管を含む）はペトロラタム系紡織テープによる防食処置を行う。外面被覆鋼管を使用する場合は継手部に適用する。

○保温　1）保温施工範囲は下記によるほか共通仕様書による。
・外気取り ダクトは行う。　・暖房蒸気還管以外の蒸気還管
・隠ぺいダクトのフランジ部は（補強を含む宇）は厚さ25mmの保温重ね巻きとする。
2）保温施工種別
○共通仕様書による。　保温材　・ロックウォール　○グラスウール
※下標による（機器、煙導は共通仕様書による）　○冷媒管はメーカー標準とする。

場所 / 管種	屋内露出（車庫。倉庫を含む）	機械室共用構内	天井・PS内	廊下暗渠内（ピット内内を含む）	屋外露出・浴室、厨房など多湿箇所
蒸気管（往）（返）高温水管	①ﾛｯｸｳｰﾙ保温筒 ②亜鉛鉄線 ②成形原子 ②面テープ	①　同　左 ②　同　左 ③ｱﾙﾐﾎｲﾙﾍﾟｰﾊﾟ ③亀甲金網	①　同　左 ②　同　左 ③ｱﾙﾐﾎｲﾙﾍﾟｰﾊﾟ ③亀甲金網	①　同　左 ②　同　左 ③ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ ④ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ	①　同　左 ②　同　左 ②　同　左 ④亜鉛鉄線 ⑤ステンレス鋼鈑
冷水管 冷温水管 給水管 排水管	①ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温坂 ①ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保 ①ｸﾞﾗｽｳｰﾙﾄ ④成形原子 ⑤面テープ	①　同　左 ②　同　左 ③ｱﾙﾐﾎｲﾙﾍﾟｰﾊﾟ ③亀甲金網	①　同　左 ②　同　左 ③ｱﾙﾐﾎｲﾙﾍﾟｰﾊﾟ ③亀甲金網	①　同　左 ②　同　左 ③ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ ④ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ	①　同　左 ②　同　左 ②　同　左 ④亜鉛鉄線 ⑤ステンレス鋼鈑
ダクト	①鋲 ②ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温板 2号410K ③角コーナ ④接着材 ⑤ガラスクロス	①同　左 ②同　左 ③ｱﾙﾐﾎｲﾙﾍﾟｰﾊﾟ ③亀甲金網	①同　左 ②ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温坂 2号410K ③ｱﾙﾐﾎｲﾙﾍﾟｰﾊﾟ ③亀甲金網		①鋲 ②ｸﾞﾗｽｳｰﾙ保温坂 2号40K ③ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｫｰｽ ④ステンレス鋼鈑

注：耐火構造の防火区画を貫通する部分はロックウール保温とする。
3）保温材の厚さ　⊙冷媒管の防火区画を貫通する部分は消防の指導による。
⊙共通仕様書による。
※下表による（機器、煙導は共通仕様書による）

管種	保温厚 mm			
給排水管	50A以下	65～125A	150A	200A	250A以上
温水管	20A以下	25mm	30mm	40mm	50mm
蒸気管	20A以下	200A	150～200A	150～200A	250A以上
高温水管	20A以下	25mm	25mm	40mm	50mm
冷水管	32A以下	40～200A	250A以上		
冷媒管	30mm	40mm	50mm		
冷温水管					
ダクト	屋内外露出部　50mm		屋内隠ぺい　25mm		

○電源周波数　⊙50HZ　・60HZ
○制御及び操作盤　※製造者の標準仕様書とする。
⊙共通仕様書による。
・2.3.6により接点及び端子を設ける。
⊙ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ用制御及び操作盤　※共通仕様書を適用する。　・共通仕様書を適用する。
○ポンプ　機器　⊙・共通仕様書による。　※製造者標準仕様とする。
基礎　・標準　※防振　⊙図示に「よる
⊙機器据付用地震力　次に掲げる事項以外は全て建築設備耐震設計施工指針による。
最上階屋上及び塔屋　※1.0　⊙1.5（防振機器2.0）・共通仕様書を適用する。
中間階　※0.6　⊙1.0（防振機器1.3）
地階及び１階　※0.4　⊙0.6
○埋め戻し土　※根切り土の中の良質土　・山砂
○残土処分　※構内敷ならし　・構内指定場所に推積　・郊外搬出適切処理

⊙空気調和設備

○機器　※ 共通仕様書による　・製造者の標準仕様書による　・機器表による
○ファンコイユニット　※流量調整弁　・定流量弁
の付属弁
・還水タンク　※ステンレス鋼鈑（SUS304）・セラミック鋼鈑
○煤煙濃度計　濃度系ファンはボイラとインターロックを取る。
○煤じん測定口　煙道の直線部直径100φmmでﾌﾗﾝｼﾞ付とする。
○煙道　鋼鈑製　※3.2mm　・4.5mm
・オイルタンク　・タンク室を設ける。
コンクリート躯体は　・本工事　※別途工事
・タンク室を設けない。
槽本体の外装は下記仕様による。
※アスファルト塗り　・エポキシ樹脂塗り
・モルタル塗り

/オイルサービスタンク　油面制御装置の機能を下記による。
・給油ポンプ起動・停止　・返油ポンプ起動・停止　・満油警報

・防油堤　コンクリート製　・本工事　※別途工事
⊙ダクト　換気ダクトの材質
※亜鉛波鉄板　（特記以の系統）
・ステンレス鋼鈑　（　　系統）
・煙火ビニル板）　（　　系統）
・塩化ビニルランニング鋼鈑）（　　系統）
換気ダクトの多湿箇所の範囲
・厨房　浴室（シャワーを含む）　・水治療室
⊙消音内貼り　1）施工箇所は　⊙吹き出口チャンバー　○吸込口チャンバー
○図示したダクト及びチャンバー類
2）内貼チャンバー類の寸法表示は外形ｎ寸法とする。
3）内貼りの厚さ　・25mm
⊙吹出口及び吸込口　※アルミニウム製　・鋼板製
⊙風量測定口　※送風機（空気調和機等も含む）に近接した吐出側ダクト　○外気取入ダクト
⊙防煙ダンパー　共通仕様書によるほか、下記の通りとする。
1）復帰式　※遠隔形　・手元形
2）操作方式　※電動式　・空気式
⊙ピストンダンパー　・手元復帰形　※遠隔復帰形
⊙定風量、変風量ユニット　※メカニカルタイプ　風速センサータイプ
⊙空調及び換気用矩形ﾀﾞｸﾄ　※アングル工法　・コーナーボルト工法
⊙排煙用ダクト　スパイラルダクト　※使用できる　・使用できない
⊙放熱器付属品　温水用には温水用放射熱器弁及びレターンコックを取付ける
⊙チャンバー　1）空調機、送排風機に取付けるサプライチャンバーレターチャンバー及びダクト系で消音内貼りしたチャンバーは点検口を設ける。
2）外壁ガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーには、（予備径20）を取付け屋外又は開接排水口に導く。
⊙温度計　下記の管及びダクトを取り付ける。温度計は、円形指示計（バイメタル式とする。
⊙冷凍機の冷水管（送り、返り）及び三方弁装置の令温水管（返り）
⊙令温水発生機の令温水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り）
・ボイラの温水器（返り）
⊙空気調和機の冷温水管（送り、返り）及び三方弁装置の冷温水管（返り）
⊙熱交換器の温水管（送り、返り）
⊙冷水ヘッダー（往）及び冷温水ヘッダーの各返り管
⊙空気調和機（パッケージ形を含む）のサプライチャンバー、リターンダクト、外気ダクト及びレタンチャンバー
○圧力計　下記の管に取付ける。
⊙冷凍機の冷却水管（送り、返り）及び冷水管（送り、返り）
⊙空気調整機の冷温水管（送り、返り）　○空冷パッケージ室外機（高、低）
⊙直だき吸収冷温機の冷却管（送り、返り）及び冷温水管（送り、返り）
⊙瞬間流量計　・設けない　※瞬間流量計（3）個を予備費とする。
⊙瞬間流量計取付け用ノズル　⊙以下の配管に設ける。
⊙冷凍機の冷水管及び冷却水管（送り又は返り）
⊙直だき吸収冷温水機の冷温水管及び冷却水管（送り又は返り）
⊙空気調和機の冷温水器（送り又は返り）
・パッケージ形空調機の冷却水管及び温水井管（送り又は返り）
⊙令温水ヘッダーの各送り管
⊙測定表　工事完了後、下記の測定表を提出する。⊙詳細は係員の指示による。

項目	室名 機器	空調室	制気口	機器類	各契機類設置部分	
温度	⊙	・	⊙	・	・	・
湿度	⊙	・	⊙	⊙	・	・
風量	⊙	⊙	⊙	⊙	・	・
騒音	⊙	・	・	・	・	・
電流値	・	・	⊙	⊙	・	・
水量	・	・	⊙	⊙	・	・
振動	・	・	⊙	・	・	・
圧力			⊙	・	・	・

⊙管の吊り　冷水及び冷温水の吊りバンドには合成樹脂製の支持受けを使用する。　蒸気
⊙煤煙風量測定　建築設備期待業務指導書（日本建築設備安全センター）の煤煙風量の検査方法に準ずる。
⊙遮音キャンバス継手　※消音ボックス付ファン類とダクトとの接続部に設ける。
・全ての機器類とダクトとの接続部に設ける。　蒸気
⊙空冷式ﾊﾟｯｹｰｼﾞ型室外機　ヒートポンプ型、二次側配管配線を含む。
送風機及び送風機出力は、参考値とする。
冷媒管サイズは、製造者標準サイズとしてよい。

Ⅳ. 使用材料塔指定表　（別所指定表による）

機器材料表名	製造者名
冷凍機（往復動式）	
冷凍機（遠心式）	
直だき吸水温水機	
ボイラー	
パッケージ形空調機	
ユニット形空調機	
ファンコイル・コンベクター	
送排風機	
屋上換気扇、エアカーテン類	
換気扇、天井扇類	
冷却塔	
弁類	
製缶類	
亜鉛鉄板	JIS表示品
吹出口・吸込口類	
自動制御機器	
ポンプ類	
伸縮継手類	
トラップ類	
保温材	
鋼管類	JIS表示品
鋼管継手	JIS表示品
消音装置	
全熱交換器	
VAN.CAV	
エアファイルター	
~~遮音キャンバス継手~~	
遮音シート	